



NPO法人国際支援地球村



平成24年度「生活者としての外国人」のための 日本語教育事業 地域日本語教育実践プログラムA 災害に対応できる日本語教室

日本語教室の
設置・運営
「災害に対応できる
日本語教室」

地域日本語教育プログラムA

日本語教育のための
学習教材の作成
「我が家の防災
マニュアル」

日本語教育を行う人材
の養成・研修の実施
「日本語教師ボラン
ティア養成講座」

作成した教材の紹介

- (1) 家の中で地震が起きたら・・・街中で地震がおきたら・・・地震がおきたらどうしますか
 - (2) 身元確認カードを作ろう/家族との連絡方法/家族のスケジュール
 - (3) サバイバルポーチを作ろう
 - (4) ライフラインが止まった時の生活の知恵
 - (5) 防災ずきんをつくろう
 - (6) 災害を乗り切るための準備/災害を乗り切るときに非常品リスト(1日間、3日間)/準備しておこう! 大事な書類
 - (7) 我が家の防災マニュアルを作ろう
- ※上記七項目はすべて日本人と外国人が一緒に作成した。

学習教材作成についての成果と課題

【成果】

地域の現状に合わせたオリジナル教材を作成し、使用することによって、より防災意識を高める学習内容の授業が実施できた。

【課題】

身元確認カードを持ち歩いていても、今回のような大津波が来た場合、すべてを流されてしまうため、カードの役目が果たせない。

日本語学習の活動

文化庁委託業務

- ・2011年 パワフル日本語教室
- ・2012年 地域日本語教育実践プログラムA
- ・2013年 復興と共にすすめる日本語教育と多文化共生社会の体制整備事業(B)

選択した「生活上の行為の事例」

I. 健康・安全に暮らす	02. 安全を守る
IV. 目的地に移動する	07. 公共交通機関を利用する 08. 自力で移動する
VIII. 社会の一員となる	16. 地域社会に参加する
X. 情報を収集・発信する	21. 通信する

平成24年度日本語教室の成果と課題

【成果と課題】

被災地に住む定住外国人の心のケアと、災害に対応できる日本語能力および生命財産を守るノウハウを学習し防災意識を高める成果があった。一方で、それらは一時的な効果で終わる可能性がある。

【課題解決】

定期的に防災意識を高める活動と震災ストレスを緩和する活動は、今後も長期にわたり支援が必要かと思われる。

現在の取組

現在、地域日本語教育実践プログラムBで、

「復興と共にすすめる日本語教育と多文化共生社会の体制整備事業」を実施中。

- 取組1 災害ボランティアと地域イベントの参加企画
- 取組2 日本語教室(防災日本語教室)
- 取組3 シンポジウムの開催
- 取組4 日本語交流サロン

NPO法人国際支援地球村
平成24年度「生活者としての外国人」のための
日本語教育事業 地域日本語教育実践プログラムA
災害に対応できる教室

